

農林水産大臣賞受賞

～水と緑に恵まれ、自然豊かな里地里山に囲まれた いきいきしらやま～

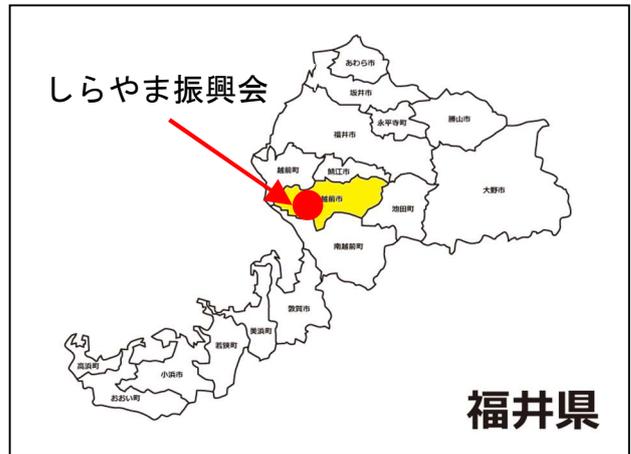
受賞者 しんこうかい しらやま振興会
(えちぜんし 福井県越前市)

■ 地域の沿革と概要

越前市は、福井県のほぼ中央に位置し市の中央を北陸自動車道、国道8号が通り、関西、中京圏や、県内福井市、敦賀市等周辺都市の交通の動脈となっている。対象の白山地区は、市内西北部の若須岳、金華山麓の22の集落からなる里地里山の風景が広がっている。

主要産業は農林業で、水稻を中心にスイカの栽培が行われ、赤土の土壌条件を生かした「しらやま西瓜」は高評価を得て産地形成がされている。

第1図 位置図



■ むらづくりの概要

1. 地区の特色

越前市では地域自治振興条例を制定し、地区の市民等が身近な課題を自主的に解決し、地区の個性を生かして自律的に町づくりを行う自治活動に関する大綱を定め、白山地区では自然環境の保全、定住し活躍したくなる地域づくりなど将来目標を掲げ、コウノトリと自然豊かな里地里山を活かした地域づくりが進められてきた。

また、その美しい里地里山風景から環境省の「里地里山保全再生モデル地区」や朝日新聞社と森林文化協会が主催する「にほんの里100選」にも選定されている。

第1表 地区の概要

事項	内容	
地区の規模	旧市町村単位の集団等	
組織の性格	地縁的な集団等(自治振興組織)	
人口等	総人口	1,538人
	総世帯数	530戸
農業経営体数 (内訳)	農業経営体数	101経営体
	個人経営体数	93経営体
	団体経営体数	8経営体
	(内、法人経営体数)	6経営体
農用地の状況 (内訳)	総土地面積	23,070ha
	耕地面積	3,620ha
	田	3,440ha
	畑	180ha
	耕地率	15.7%
	一経営体当たり耕地面積	3.0ha

注:農用地の状況は越前市の数値

2. むらづくりの基本的特徴

(1) むらづくりの動機、背景

越前市では、平成16年に地域自治振興条例を制定し、地区の市民等が身近な課題を自主的に解決し、地区の個性を生かして自律的にまちづくりを行う自治振興会の活動に関する事項の大綱が定められた。本条例が制定されたことを受けて、同年に白山地区では「しらやま振興会」が設立され、活動が始まり、平成22年に地域に2羽のコウノトリが飛来した。地域では、この飛来の40年前にもくちばしの折れたコウノトリが飛来、保護された経緯があり、コウノトリに愛着を感じていたこともあり、コウノトリとともに暮らすむらづくりが進められることとなった。



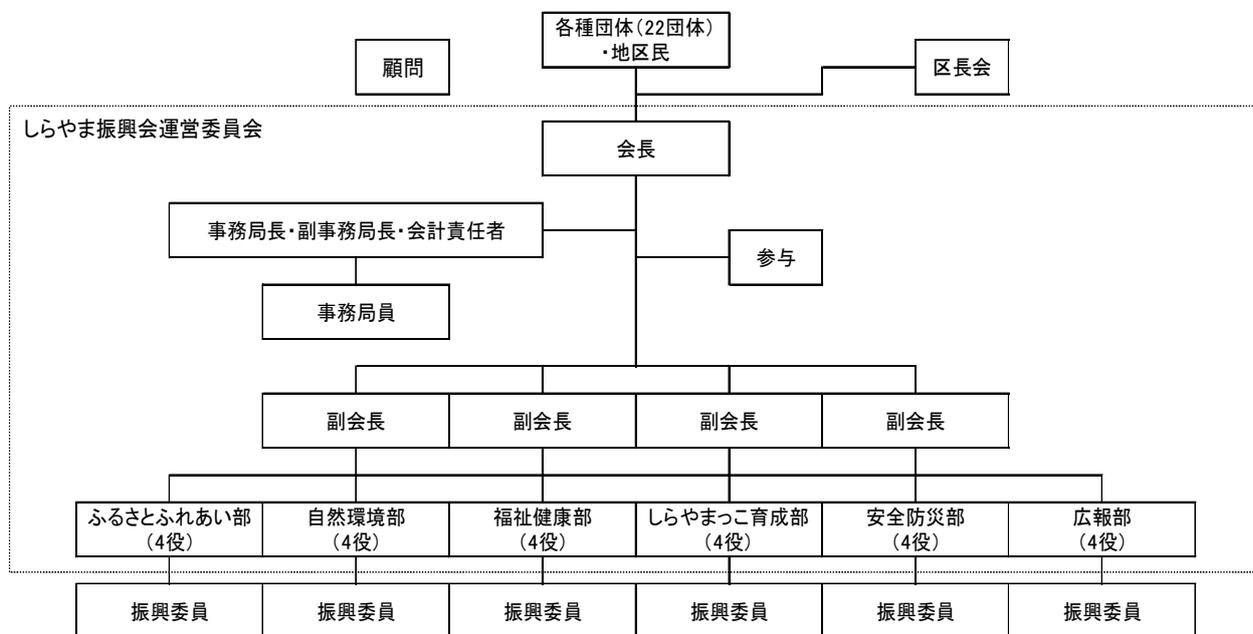
写真1 白山地区全景

(2) むらづくりの推進体制

「しらやま振興会」は平成16年に地区民の総意による事業の検討や地域自治振興（まちづくり）計画を策定し、あわせて地域自治振興計画に基づいて事業を実施する主体的な役割を担っている。

ア 当該集団等の組織体制、構成員の状況

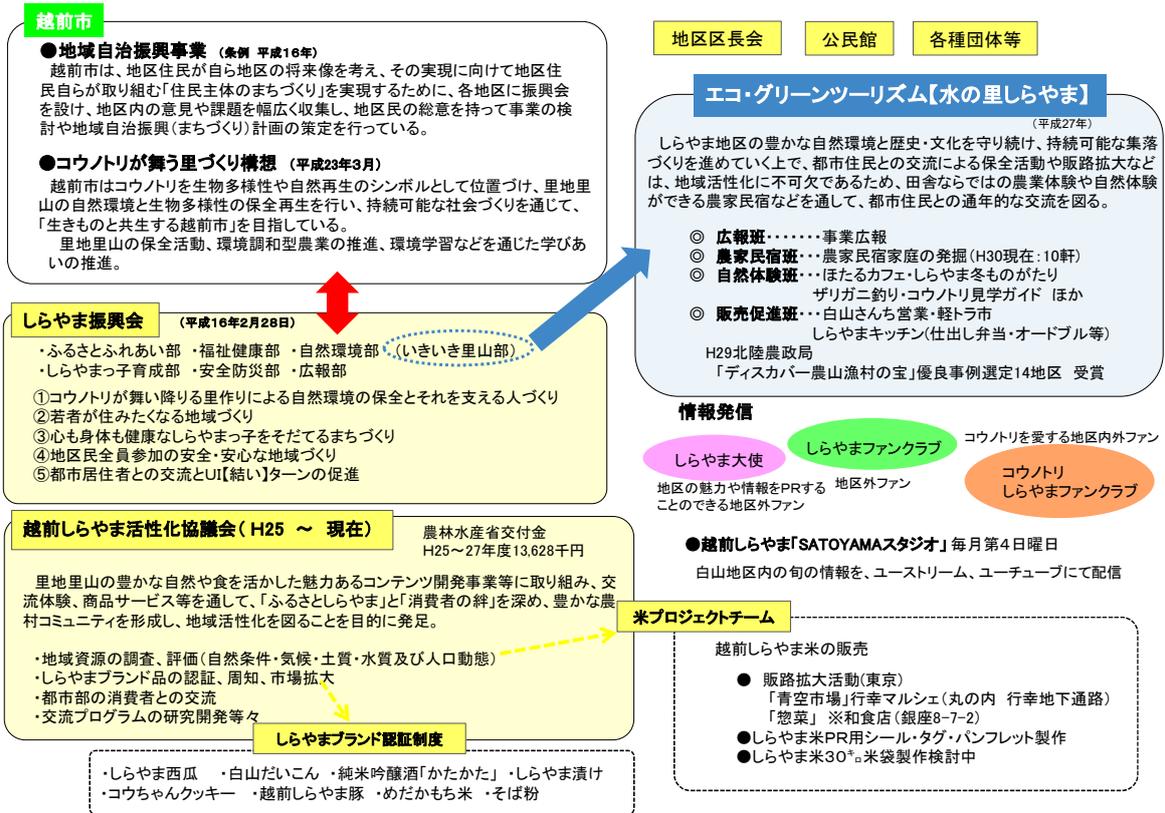
第2図 むらづくり推進体制図①



イ 他の組織、団体及び行政との関係

コウノトリを呼び戻すという地域の将来像を意識し、地域住民が一丸となり、コウノトリをはじめとする希少な生物の保全活動や田舎ならではの自然体験、農業体験を通じた都市住民との交流を行う多様な団体と連携したむらづくりが展開されている。

第3図 むらづくり推進体制図②



■ むらづくりの特色と優秀性

1. むらづくりの性格

平成16年に制定した地域自治振興条例に基づいた活動を続ける中で、平成22年に2羽のコウノトリが飛来した。そのコウノトリに地域住民は、40年前の嘴が折れ保護されたコウノトリの姿を重ね将来も守り続けたいと、コウノトリをシンボルとした、「故郷にコウノトリを呼び戻す」自然豊かな里地里山を活かすむらづくりがスタートした。

2. 農業生産面における特徴

(1) 農業生産、流通面の取組

コウノトリのえさ場となる無農薬無化学肥料等の米づくりに取り組むため、地元農業者有志とJAが連携して「コウノトリ呼び戻す農法部会」を設立。生き物退避溝の設置や冬水田んぼ、無農薬無化学肥料による自然生態系に配慮した米づくりを実践している。また、福井新聞社と共催して「越前にコウノトリ呼び戻す田んぼファンクラブ」を設立。地域内外から親子や企業からの参加者を募集し、無農薬無化学肥料の米づくり体験会や地元の伝統料理を継承する活動といった里山の恵みを味わう体験を継続して開催している。



写真2 越前にコウノトリ呼び戻す田んぼファンクラブ

(2) 生産力の向上、生産の組織化、生産・流通基盤の整備等の取組

地区の自然豊かで美味しい食材に着目した「越前しらやまブランド」認証制度を創設し、米やスイカ、加工品を独自に認証、首都圏の料理店への米の販売を行っている。「越前しらやまブランド」の代表的な商品である純米吟醸酒「かたかた」は、地元越前市の酒造メーカーと連携し、地区の農事組合法人が栽培した無農薬無化学肥料の酒米で造られた清酒である。山から湧き出る清らかな山水で栽培し、カエルやメダカといった多様な生物と共生しながら栽培された完全無農薬の酒米を使用した清酒は全国でも珍しく、地区をPRする素材となっている。

令和6年春の北陸新幹線越前たけふ駅開業に先駆け、令和5年1月に越前市内に初めてワイナリーが開業した。ワイナリーでは、白山地区で栽培（1.3ha）されたカベルネ・ソーヴィニオンやシャルドネ等の欧州系の品種を中心に十二種類のブドウを使用し、販売する予定で、振興会はワイナリーの相談を受けるなど構想実現の助言者となっている。



写真3 越前しらやまブランド認証



写真4 ワイナリー

(3) 経営の改善、後継者の育成・確保、女性の経営参画の促進状況

古民家を改修しオープンした「白山さんち」では、調理スタッフ（女性）がレストラン・カフェを営業するかたわらで弁当を販売し収益を上げており、地区の雇用の創出に寄与している。また農産物直売市「青空マルシェ」を定期的に行い、地区内外の利用者に農産物を提供している。その中では地元の中学生在が栽培したスイカの販売も行い、「しらやま西瓜」の後継者育成、食農教育の役割も担っている



写真5 しらやま西瓜

3. 生活・環境整備面における特徴

(1) 生活・環境整備面の取組について

遊歩道などグリーンツーリズムのコース整備のほか、生き物退避溝の設置などコウノトリを呼び戻す水田の環境整備を行っている。

(2) 生活条件の改善・整備、コミュニティ活動の強化、都市住民との交流等

しらやま振興会独自の Web サイトや YouTube チャンネルを開設し、自然および食と農を通じた豊かな暮らしの提案やこだわりの農産物などの地域の魅力を国内外に発信している。

また、越前しらやま活性化協議会は「コウノトリしらやまファンクラブ」を開設し、コウノトリを愛する地区内外のファンに向けて白山地区のイベント等を情報発信することで、交流を実現している。

レストラン「白山さんち」では、令和4年に農家民宿を開業し、地区内外の交流の場として重要な拠点となっている。

高齢者支援として、「サポートしらやま」および「地域福祉支援協議会」と連携して家事支援や自動車による病院や買い物送迎を実施している。子育て世代の支援としては、「しらやま学童クラブ」と連携して、市街に働きに出る両親のいる学童を地域の大人がお世話をす、しらやま学童保育事業に取り組んでいる。



写真6 YouTube チャンネル
による発信



写真7 しらやま学童保育

(3) 地域への定住促進、女性の社会参画の促進

「白山さんち」の整備により、地域女性が農産物の販売、レストラン・カフェの営業に加えて土産品や手工芸品の販売を行うなど、女性の活躍の場が創出された。

また、しらやま振興会では平成29年に空き家調査を実施し、移住者に住居を斡旋するなど定住化支援に取り組んでいる。



写真8 地域活動拠点としている
白山さんち